

Ⓐ

国  
語(現代文)

(  
解答  
番号

1

)

31

(

第1問 次の問い(問1～3)に答えなさい。

問1 次のa～eの傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。 解答番

号は a | 1、 b | 2、 c | 3、 d | 4、 e | 5。

a 姉は猫をへんアイしている。

- ① 占領地をへんカンする。
- ② 勅撰和歌集をへんサンする。
- ③ 天才のへんリンをうかがわせる。
- ④ 若者に対してへんケンを持つている。
- ⑤ 諸国をへんレキして見聞を広める。

b テイサイをとりつくろう。

- ① あざやかなシキサイ。
- ② 社会的なセイサイを加える。
- ③ 事故の写真をケイサイする。
- ④ ミカンをサイバイする。
- ⑤ 難民をキュウサイする。

c 悪事がオウコウする。

① 道路をオウダンする。

② 家と学校をオウフクする。

③ 証拠品をオウシユウする。

④ 机を部屋のチュウオウに置く。

⑤ オウヨウ問題を解く。

d

観察記録をコクメイにつける。

① コクモツを生産する。

② 時計がジコクを告げる。

③ 病をコクフクする。

④ レイコクな判決に憤る。

⑤ ミツコク者が判明する。

e

方針をテンカンする。

① カンレキを迎える。

② 血液がジュンカンする。

③ 贈物をコウカンする。

④ 当初の目的をカンスイする。

⑤ 文学にカンシンをもつ。

問2 次の a ～ e の空欄（ ）を補って四字熟語を完成させるのに最も適当な漢字の組合せを、後の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | 、b | 、c | 、

d | 、e | 。

- a 泰（ ）自（ ）
- b 起（ ）回（ ）
- c 喜（ ）満（ ）
- d 本（ ）転（ ）
- e 片（ ）隻（ ）

- ① 言・句
- ② 死・生
- ③ 色・面
- ④ 然・若
- ⑤ 末・倒

問3

次のa～eの空欄( )を補うのに最も適当なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | 、 b | 、 c | 、 d | 、 e | 。

a ( )に富む。

b ( )紙背に徹する。

c ( )に触れる。

d ( )にもかけない。

e ( )を現す。

① 眼光

② 逆鱗げきりん

③ 歯牙

④ 春秋

⑤ 馬脚

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～5)に答えなさい。

フランス一八世紀の有名な、ヴォルテールは、例えば地理学者と会えば、世界の地理を語り、文学者と会えば、古今の文学作品を論じて、a、とどまるところを知らなかった、と伝えられている。彼としばらく話した人は、とても感激して視野の広さや知識の該博さに感嘆した。だが、そういう人も、一言、こう付け加えるのだった。

もしその人が地理学者なら、「あの人は本当に素晴らしい。でも強いて言うなら、地理に少し弱い」と。その人が文学者なら、「あの人の演劇についての知識は少しばかり杓子定規だ」と。要するに、その道の専門家から見れば、さすがのヴォルテールも、少し弱いところがあったということだ。

これは、文字通り「何でも知っている」というのは、とても可能なことではなく、X。しよせん世界を動かしているのは、小さな領域に沈潜してはいるが、その小さな世界を知り尽くし、考え尽くした(1)〈専門家たちだ、ということなのか。

確かにbの知識を振り回し、何でも知っているような顔をする人は、いわゆる〈評論家的な人間である」とされ、否定的に見られることが多い。そんな人間は、狭くても正確な知識の持ち主たちには、軽薄な人間に映るはずだ。一般的にいつて、専門家の労苦を軽んじることなどできるはずはなく、専門家にしかできないことで、世界は満ち満ちている。

にも拘わらず、現代のような知的状況の中で、私は、脱専門家的な方向がもつ可能性にもう一度かけることはできないか、と考えている。何もヴォルテールの真似をして、万学に精通しろといっているわけではない。今の知識水準を考慮に入れると、それを目指すには寿命が二〇〇年あっても足りないだろう。

しかし、今は、知識が精緻で厳密である分、専門家は、世界を細切れにしか見ることができない。世界の小片の襞の折り目まで知り尽くしている分、それを遠くから臆気おぼろげに見たときに見えてくるかもしれない、大きな裂け目や大きなうねり、見て取ることができない。

でも、そんなうねりや裂け目に気を遣い、例えば日本の文化が今後、だいたいどのような方向に流れていくのかを、総体的に

予想する人。その予想に基づいて、現時点で何をしたらいいのかを述べてくれる人。そんな人が、もっといてほしい。

ヴォルテールは、当時「哲学者」と呼ばれていた。実は私が今希望したようなことができる人は、まさに哲学者に相当する人だ。だが残念ながら、よく言われるように、日本の哲学者は、哲学史の文献学者が大部分で、いま私が望んだような役割を自ら背負おうとはしない。脱専門的で総合的な見通しをしてくれる人。全くいないといえば言い過ぎだが、やはり少し少な過ぎるなあ。

ところで、日本は、高等教育でさえ、私の希望に逆行することを、この数年どんどん推し進めてきた。いわゆる（教養教育）の解体だ。確かに、教養教育という割には、それに固有の体系性もなく、たまたまそこに奉職している教官の個人的興味だけで行われていた授業も多かったので、もともとそれほどまくは機能していなかった。

だが、そうはいっても組織がありさえすれば、その改善可能性を探ることができた。ところが今では、その組織さえ、解体が進んでいる。

専門家から見れば胡乱うろんに見えたかもしれないことはいえ、一度、(2) 教養的なものを壊してしまうと、後で復元しようと思っても、本当に大変になるぞ。教養なるものは、まるで摺ぶみ所がなく、すぐに役に立つという規範にも従いそうにない。

だが、それは、本当に空虚で時代遅れの疑似的知識でしかないのか。専門知とは違う切り口を適宜、提示することが許されている社会空間を整えていた方が結局は、専門人にとっても有益なはずだ。（顕微鏡）でみることだけが見るのではなく、臚かすみ気な霞をポーッと眺めることにも、それなりの意味がある。

つまるところ、それは別にどっちが偉いという類いの話ではない、ということだ。もちろん細かく見るなら、良くも悪くも大雑把で大局的な見方を適宜してみせる人には、いろいろな欠点があるに違いない。

しかし、それは別に致命的にはならない。もしその種の人たちが事実関係で少し間違ったことを言ったなら、専門家がそれを的確に修正してやればよい。それはまさに専門家にうってつけの仕事だ。どっちが偉いということではなく、お互いが補完し、助けあう存在なのだ。

幸いなことに、優れた専門家は沢山いる。だから、今最も求められているのは、もっと太書きの構図を描ける人、良い意味で

の文明論的な見通しを背負うことが出来る人なのだろう。教養という、古臭く、胡散臭く、權威主義的で嫌みな言葉でも、実はそんな大切な意味を抱えもっていたのだ。

教養のあるあなた、あなたらしい謙虚で控えめな姿勢を少し崩して、もっとわれわれに、文明の構図を示して見せて下さい。期待してます。私も、少しだけ、その真似をしてみるつもりですから。

(金森修「頑張れ、教養人」『科学思想史の哲学』所収より)

問 1 空欄

a

b

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びな

さい。解答番号は a

16

、 b

17

。

- a
- ① 流言飛語
  - ② 右往左往
  - ③ 大言壮語
  - ④ 談論風発
  - ⑤ 言語道断

- b
- ① 半可通
  - ② 未曾有
  - ③ 大同小異
  - ④ 荒唐無稽
  - ⑤ 自家菜籠中



問2

空欄

X

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

18

- ① 知識が杓子定規だということは、知識に厳密さを求めたことの結果ではないだろうか
- ② 何でも知っているような顔をする人は、実は何もわかっていないのではないだろうか
- ③ 知識の精緻さは、その知識が狹隘であることと表裏一体の関係にあるのだろうか
- ④ 何でも知っているということは、何にも知らないということに等しいのではないだろうか
- ⑤ 知識の該博さは、その知識が浅薄でもあることの裏返し表現に過ぎないのだろうか

問3

傍線部(1)「〈専門家たち〉とあるが、筆者は「〈専門家たち〉」のことをどのような人だと捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

19

- ① 万学に精通しようとして努力しているが、それが不可能であることに気づいていない人。
- ② 専門分野には精通しているが、世界を近視眼的、断片的にしか見ることができない人。
- ③ 大局的な見方が求められている現代においては、その役割が軽んじられつつある人。
- ④ 専門領域のことを知り尽くしており、実際に世界を動かしていると言える人。
- ⑤ 精緻で厳密である専門的な知識に基づいて、文明の方向性を予想することができる人。

問 4 傍線部(2)「教養的なもの」とあるが、筆者は「教養的なもの」をどのようなものだと捉えているか。その説明として最も

適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- ① 専門知の助けを借りて、文明論的な見通しを立てることが出来るもの。
- ② 哲学者だけが身につけている、専門知の限界を打破することができるもの。
- ③ 専門知を相対化することで、専門家が権威主義に陥らないようにするもの。
- ④ 総合的な見通しを立てることに貢献する、専門知よりもはるかに重要なもの。
- ⑤ つかみどころがなくて役に立たない、時代遅れの疑似的知識でしかないもの。

問 5 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- ① 体系性を欠いた教養教育はいったん解体して、その改善を図らなければならない。
- ② 日本の哲学者はヴォルテールのように教養はあるが、構想力に欠けるものが多い。
- ③ 教養人と専門家とは対立するのではなく、相補的な関係にあることが望ましい。
- ④ 現代において文明論的な見通しを立てるには、すべての領域に精通していなければならない。
- ⑤ 専門家は専門家であることに自足せず、同時に哲学者であることを目指すべきである。

第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜7)に答えなさい。

一七九三年に、フランス革命後の国民公会が、「男性であれ女性であれ誰であっても、いかなる男性市民、女性市民に対して、何かしらの特定の服を着ることを強要することはできない」と宣言して以来、人々は公に、出自に関係なく自由に衣服を着ることができるようになった。それ以前においても、都市部では身分と衣服との結びつきが崩れはじめており、身分を無視した自由な服装は、神によって作られた秩序を乱す行いとして問題になってはいた。しかしこの宣言によって、自分がどういう身分で、どこ出身で、どういう職業に就いているかを、衣服で表明しなくてよいと政府が認めたことの意味は大きかった。

だからと言って、(1) 人々がまったく無秩序に、何でも着られるようになったわけでもなかった。 というのも、まず、衣服を手するには、それに見合った資金が要求される。さらに、衣服を選ぶときには、社会的な圧力がかかってくる。たとえ身分によって厳格に決められていないとしても、その人の社会的な位置によって選べる衣服は決まってくるのだ。単純な話、多くの男性は女性の衣服を選ぶほうとしないし、多くの若者は、流行遅れの衣服を選ぶほうとしない。規準はさまざまでも、それぞれが自分に相応しい衣服とは何かを考え、服を選ばなくてはならなくなったのだ。

それにしても、それから二〇〇年以上たった現在において、女性らしさや男性らしさといった、最もわかりやすい規範すら消滅していないことを考えると、着ることが、着用者の選択にゆだねられきていないことがよくわかる。なにかしらの権力作用がなければ、これほどに着るものが男女に分断され、かつ、男女の中では a しているはずがない。男性が仕事用にスーツを着ることで、女性が雑誌に載っている服を追い求めることが、同じように社会的圧力に由来するとしてしまうことには異論も多いだろう。しかし、それらは所詮程度の差であって、人々が、 b されていない複雑なルールを c しなから、衣服を選んでいることに変わりはない。男女の衣服の差は、近代以前の慣習を引き継ぎながらも、近代社会の新たな抑圧と結びついて形成されている。

ただ、それとは別に、この二〇〇年前の革命で掲げられた「自由」と「平等」という、近代全体を代表するようなスローガンもま

た、ファッションに大きな影響を与えている。

自由と平等は、仲良く手を取り合って、近代社会の良い面を作り上げているように思われているが、<sup>(2)</sup>この二つのイデオロギーは矛盾するものでもある。というのも、自由と平等は、それぞれ集団主義と個人主義を反映したものだからだ。

フランス革命において、自由とは、それまでの身分から離れる自由を意味した。しかし革命後、自由は「個性」という概念ともなつて意味を変えていった。それ以来、自由とは誰にはばかることなく个性的である自由であり、個性に従つて能力を伸ばす自由であり、それによつて人より多くを得る自由にもなつていった。

だが、そうやって人々が、個性に従つた自由を際限なく発揮する社会になれば、人々の間の平等は崩れることになる。個性を認めることは、能力の差を認めることと、同じ意味を持つ。能力の差を発揮することを肯定すれば、社会的地位や資産に差が出ることになり、平等が崩れていく。逆に、人々を徹底的に平等にしようとするれば、個性を発揮する自由を奪わざるをえなくなる。自由と平等は、簡単には共存できないのだ。

近代人は、自分自身が誰であるかを決める権利と責務を負っている。そしてファッションは、自分が誰であるのかの視覚的な情報を、自分で決めることによつて引き起こされる。自分自身が誰かを決める時にも、それが見た目として表出する時にも、自由と平等のせめぎ合いは、大きな影を落としている。

ファッションが個性と深く関わっているのは、近代人がいつも個性から逃れることができないからである。しかし一方で、自分が誰であるのかの視覚的な情報を、自分の手で決めることは、とても大きく制限されている。平等の精神が、身体の見え目によつて社会が分断されることを許さず、全員に市民的な身体、つまり労働する身体を持つことを求めているからだ。

近代は、人間の身体を職業や身分、地域といった個別性から解放し、存在を平等にして、同質で効率的で普遍的なものにリデザインした。私たちが制限された中から選ぶことによつてしか、自分の体を形づくることができないのは、そういった歴史的な経緯の中にあるからである。

フランス革命以降、近代社会は、自由と平等の二つのイデオロギーのせめぎ合いの場となつていくが、その綱引きが身体の上

で見える形で現われ続けているのがファッションである。ファッションを見ると、X が見える。視覚化された権力体系であるファッションには、人間がどういう存在として考えられているかが、直接反映されているのだ。

社会学者のゲオルク・ジンメルは、人と違っていたという「d 衝動」と、人と同じでいたいという「二様性衝動」の、二つの矛盾した欲望のせめぎ合いとして流行現象を理解しようとしたが、このことはまさに、個人の中で自由と平等とのせめぎ合いが起きていることを、他の言葉に言い換えたにほかならない。ジンメルの言葉によれば、「メンバーに向って部分的機能という一面性を要求する全体と、自ら一個の全体たらんと欲する部分との間の抗争」ということになる。

こういった、近代的個人における自由と平等のせめぎ合いは、フランス革命の後継者である ナポレオン・ボナパルト に、顕著に見ることが出来る。ナポレオンの肖像画は大きく分けて二種類あるが、それこそが自由と平等のせめぎ合いの結果なのだ。

肖像画の一つは軍服に身を包んだもので、もう一つは皇帝の衣裳を纏ったものである。国旗を意識したトリコロールの軍服は、平等な存在である国民のひとりであることを意味している。かたや古代ローマ皇帝にならった豪華な衣裳は、誰の能力をも超越した、個性を持った特別な存在であることを意味している。

フランス国民は特権階級を排し、「反革命」とみなされる存在を徹底的に抹殺して、誰もが平等である社会を作り上げた。その後、卓越した個性を認めて、自分たちの上にナポレオンを戴いた。国民としてのナポレオンが、誰もと同じ制服を着ているのも、皇帝としてのナポレオンが、他の誰も着ることのできない衣裳を着ているのも、平等と自由という二つのイデオロギーを反映してのことである。こうして、そのはじまりに、ファッションは振れ幅の極端から極端までを、ひとりの人間の上で見せることになった。これ以降のすべての服は、ナポレオンの軍服から皇帝の衣裳までの間にあると言える。制服から唯一無比の服までの間に、近代人はいるのだ。

しかし、その二つの服の間のどこに身を置くのかは、着る本人が選ばなければいけない。誰もが同じ制服を着ることも、皇帝のように際立って違う服を着ることも、現在の社会では不可能であり、周囲との同調や区別を考慮しないわけにはいかない。

(井上雅人『ファッションの哲学』より)

問1 空欄

a

↳

d

に入れるのに最も適当なものを、次の①〜⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。  
ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a— 22、b— 23、c— 24、d— 25。

① 個性化

② 多様化

③ 内在化

④ 平均化

⑤ 明文化

問2

傍線部(1)「人々がまったく無秩序に、何でも着られるようになったわけでもなかった」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 26。

① 衣服が身分によって決められるということはなくなっても、職業によって着る服が決められるようになったということ。

② 衣服が身分によって決められるということはなくなっても、お金の保有量で着る服が決められるようになったということ。

③ 衣服と身分との結びつきは崩れたものの、人々は社会を支配している暗黙の規範などに従って衣服を選んでいるということ。

④ 衣服と身分との結びつきは崩れたものの、人々は自分らしい衣服を選択するように社会から要請されているということ。

⑤ 衣服を選ぶときに近代以前の習慣に従わなくてもよくなったが、今度は新しい習慣に従わざるを得なくなったということ。

問3

傍線部(2)「この二つのイデオロギーは矛盾するものでもある」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

27。

- ① 人々が自由に個性を追求すると人々の間に格差が生じて平等は崩れるし、人々が平等であることを追求すると個性を發揮する自由は奪われるということ。
- ② 人々が自由に能力を伸ばそうとすると集団主義が支配する社会になり、人々が平等であることを追求しようとする個人主義が支配する社会になるということ。
- ③ 人々が身分から自由になろうとした結果、平等な社会が実現したが、今度はその平等が個性的であろうとする人々の自由を制約するようになったということ。
- ④ 平等の精神によって人々は身分に制限されずに自由に衣服を選べるようになったが、今度はその平等の精神が自由に衣服を選ぶことを制限するようになったということ。
- ⑤ 近代社会にあつては、個性に従つて能力を伸ばそうとする自由と格差をなくそうとする平等には、互いに支えあう面と対立しあう面があるということ。

問4

空欄

X

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

28

- ① 近代社会が、自由と平等との間でいかに均衡を保ってきたか
- ② 近代社会が、自由と平等の二つをいかに重視しているか
- ③ 近代社会が、自由も平等もどれほど実現できていないか
- ④ その時の社会が、自由と平等のどちらに傾いているのか
- ⑤ その時の社会が、自由と平等との対立にいかに苦悩しているか



問5 傍線部③「ナポレオン・ボナパルト」とあるが、筆者が「ナポレオン・ボナパルト」の衣服を取り上げたのはなぜか。その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① ナポレオンは肖像画で軍服に身を包んだ姿と皇帝の衣裳を纏った姿を示しているが、これらの服装はその後の近代のファッションを先取りしたものであるから。
- ② ナポレオンの肖像画における二種類の衣服は自由と平等を示しており、近代人が自由と平等との間で引き裂かれて苦悩していることを象徴的に表現しているから。
- ③ 肖像画でのナポレオンの衣服は自由と平等の両極端を示しており、近代のファッションが自由と平等のせめぎ合いの中にあることを顕著に表現しているから。
- ④ フランス革命の後継者であるナポレオンは、そのファッションにおいても革命性を表現しており、フランス国民が衣服を選ぶうえでの模範になっているから。
- ⑤ ナポレオンは現代人がもはや着ることができない衣服を身につけた肖像画を通して、現代人に対して衣服における自由と平等の真のあり方を示しているから。

問6 近代のファッションの説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

30

- ① 近代になって、人々は身分や職業とは無関係に自らの着る服を選ぶことができるようになった。
- ② 近代になって、ファッションには人間がどういう存在かという人間観が反映されるようになった。
- ③ 近代になったからといって、ファッションが近代以前の慣習から完全に自由になったわけではない。
- ④ 近代になって、ファッションには自由と平等のせめぎ合いが目に見える形で表現されるようになった。
- ⑤ 近代になって自由になったといっても、人々は社会的な圧力を感じながら服を選択している。

問7 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

31

- ① ファッションは古い秩序を新しい秩序に改めつつ発展してきた。
- ② ファッションには常に女性らしさと男性らしさが求められてきた。
- ③ ファッションでは自由は集団主義と平等は個人主義と結びつきやすい。
- ④ ジンメルは自由と平等の対立からファッションを解放しようとした。
- ⑤ 近代人はファッションを通してアイデンティティを表現しようとした。